

釧路市教育委員会 令和6年第13回7月定例会会議録

1 日時：令和6年7月23日（火）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、森学校教育部次長、大島総務課長、小西教育政策主幹、齋藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曾根美術館長、秋葉博物館長、竹内スポーツ課長、鈴木園長、平野ふれあい主幹

4 議事録署名人 山口委員 小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）亜細亜大学硬式野球部釧路合宿及び第7回タンチョウリーグ in くしろの開催について

（2）アイスホッケー交流戦 KUSHIRO TANCHU-CUP2024 の開催について

（3）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

- (1) 亜細亜大学硬式野球部釧路合宿及び第7回タンチョウリーグ in くしろの開催について

(竹内スポーツ課長)

報告事項1、亜細亜大学硬式野球部釧路合宿及び第7回タンチョウリーグ in くしろの開催について報告する。

亜細亜大学硬式野球部による釧路合宿と第7回目となる「タンチョウリーグ in くしろ」が、資料2ページ目の日程表のとおり、8月5日（月）から15日（木）の期間で開催される。

オープン戦として、8月10日（土）に亜細亜大学対八戸学院大学の試合が行われ、その後、タンチョウリーグが8月11日（日）から15日（木）の期間、亜細亜大学硬式野球部、札幌ホーネッツ、東京農業大学北海道オホーツク硬式野球部の3チームにより4試合が開催される。会場はウインドヒルひがし北海道スタジアムとなる。

タンチョウリーグは、平成29年に釧路市民球場の大規模改修工事が完了したことを機に、亜細亜大学硬式野球部が中心となり創設され、今年度で7回目の開催となる。

リーグ開催期間中は、入場料を無料とする有観客の対応を予定しており、市民をはじめとする多くの観客や子供たちに、レベルの高いプレーをご覧いただけることを願っている。

今年度は2年ぶりに亜細亜大学硬式野球部が来訪して釧路合宿が実施されることになり、タンチョウリーグへの参加の他、小学生を対象とする野球教室や、指導者を対象とする講習会が予定されている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

8月13日の15時から指導者講習会の実施とあるが、私たちの要望として、釧路市の高校の野球部が甲子園へ行き、活躍する姿を見たいので、できれば高校生の指導者も対象とした講習会も、今年の実施が難しくても、将来的に取り組んでいただきたいと思います。

【公開案件】報告事項

- (2) アイスホッケー交流戦 KUSHIRO TANCHU-CUP2024 の開催について

(竹内スポーツ課長)

報告事項2、アイスホッケー交流戦 KUSHIRO TANCHU-CUP2024 の開催について報告する。

昨年度に引き続き、アイスホッケー交流戦である「KUSHIRO TANCHI-CUP2024」が8月21日から25日の期間で開催される。

今大会は、関東、関西、韓国からの大学生チームと、武修館高校による合計7チームの交流戦となり、会場は釧路アイスアリーナとなる。

この交流戦は、アイスホッケーの競技発展と人材育成を目的とする「くしろビエルマキプロジェクト実行委員会」が事業の一環として開催するものであり、今回が2年連続2回目の開催となる。

開催前には参加チームによる合宿が行われ、その成果を発揮する場として交流戦を開催することにより、釧路市がアイスホッケーの合宿拠点となることを目的としている。

また、開催期間中には、交流戦以外にも小学生を対象としたアイスホッケー教室や、アイスホッケー選手や選手の父兄を対象とする大学説明会が開催される。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

この大会には参加しないが、大学説明会には参加するという大学はあるのか。

(竹内スポーツ課長)

もともとはこの大会に参加する大学が大学説明会に参加することを想定していたが、大会には参加していない早稲田大学より、説明会に参加したいという要望があり、実行委員会にて検討し、特例で許可をしたところである。来年度以降もこういったことは想定されるので、大会に出なくても大学説明会に参加する大学は出てくると思われる。

【公開案件】報告事項

(3) 学校の現状について

(齊藤総括指導主事)

報告事項3、学校の現状について報告する。

学校は7月27日から8月25日までの30日間、夏季休業に入る。

5月から始まった全学校全教師の授業参観をする1次訪問、教育長による全学校の学校訪問も無事終了した。1次訪問の様子については、後ほど報告する。

暑さ対策の一環として全学校に配置した送風機と保健室のエアコン、そして試行的に阿寒地区3校の各教室に設置した窓枠エアコンだが、この釧路でも昨年の猛暑を再現するかのよう暑い夏の予感がする中、すでに各学校でフル稼働しているところである。

暑さ指数の測定、記録及びそれに基づく教育活動の変更も含めて、児童生徒及び教職員の安全第一を最優先に夏を乗り切るよう、先日の校長会議及び教頭会議でも改めて各学校に注意喚起を行ったところである。

昨年度末に導入した統合型校務支援システム i F u t u r e だが4月から本格的に稼働し

ている。まだまだ使いこなせていない教員や学校がある中、各学校とも試行錯誤を繰り返しながら積極的に活用しているところである。

そのような中、クロームをブラウザとして用いてログインした場合、児童生徒でもログインできる可能性があることが判明し、情報漏洩にも繋がりがねない危険性を含んでいることが改めて判明した。

校務用端末から i F u t u r e へのアクセスについては、クロームをブラウザとして使用することは禁止とし、I n t e r n e t E x p l o r e r 11以上やM i c r o s o f t E d g e等の他のブラウザを使用することと併せて、授業や退勤等で自席を離れる場合には必ずログオフをするよう、改めて教職員への周知徹底をお願いしたところである。

1人1台端末のクロームブックの持ち帰りについては、以前にもご報告した通り、市教委として推奨しているところである。すなわち夏季休業中は持ち帰りを前提に宿題等の出し方に工夫するよう学校には指導したところである。

6月に家庭でのW i - F i環境を調査したところ、小学生、中学生ともに99%以上の家庭でW i - F i環境が整備されていることがわかった。前回の調査は今年3月に行っており、信頼に掲載の表の通り、僅か3カ月足らずの間に急速に家庭でのW i - F i環境が進んでいることが伺える。

学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校の開校については、令和8年度に北中学校の分校として中央小学校の3階部分に開校することを6月議会にて報告したことから、校長会議でもその旨お知らせをしたところである。今後スムーズな開校に向けて諸準備を進めていく所存である。

ここ最近、道内各地で、教員の不注意による個人情報の漏洩事件が連発している。学期末の評価時期を迎え、評価情報を先生方が校内で持ち歩くことが頻繁になることが予想されることから、個人情報や評価情報をはじめ、情報管理とその取扱いについては、これまで以上に慎重に行うよう、各学校に強くお願いと指導をしたところである。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

先ほど、情報漏洩の危険性があることからクロームブラウザから使用することは不可とするとあったが、夏季休業で子どもたちに貸与しているクロームブックを家庭に持ち帰っているが、子どもがそこからアクセスして、情報を抜き取ったり、情報を知り得て他に漏らす等の危険性はないのか。

(小西教育政策主幹)

基本的に i F u t u r e に接続できるのは学校内だけとなっているため、その危険性はない。教員は校務用端末といって職員室で使用するパソコンとG I G Aスクール構想の関係で配置したクロームブックの2つを持っている。教室の中でクロームブックから i F u t u r e にアクセスすると子どもたちの情報を見ることができてしまうので、市教委でそれはさせ

ない設定を施したが、一部の学校で i F u t u r e にアクセスできるという報告があがっていた。クロームからアクセスすると見ることができるという報告だったことから、クロームを使用しなければ遮断できるということで、今回の措置となった。相当難しいと思うが、仮に学校内で児童生徒が i F u t u r e の画面まで到達したとしても I D 及びパスワードを入れる等の作業もあるため、情報漏洩のリスクは少なくなっている。

(山口委員)

昨日、昭和小学校のコミスクの会議にオブザーバーとして参加した。校長先生から、夏季休業中にクロームブックを持ち帰らせ、課題もこのように与えていくという説明を受け、使い勝手が良いものだとう理解した。それが悪用されないのであれば、積極的にどの学校も持ち帰り、課題等もクロームブックを使っていけば子どもたちの食いつきも良くなるのではないかと実感した。

(小出委員)

資料に教員の不注意による個人情報漏洩について注意書きがあるが、報道内容についても保護者の立場からすると考えられない内容であった。今回は情報の取扱いに関する管理指導という点での記載であると思うが、その個人情報自体の記載方法についても、先生方に考えてもらう良い機会だと思うので、併せて対応していただきたいと思う。

(齊藤総括指導主事)

報道にあった記載方法について、予想ではあるが先生同士の引継ぎ事項と思われ、生々しい情報というものはある程度必要になると思われる。重要なのは絶対に第三者に見せない適切な情報管理であるが、正しい情報でないものを断言して記載している場合は指導されるべき点かと思うのでそういった点については併せて指導を行っていきたい。

(靱山委員)

暑さ対策について、現時点で登下校の際や学校生活の中で暑さによって体調不良を訴えている児童生徒がいるのか、授業に支障が出ているといった情報があれば教えてほしい。

(齊藤総括指導主事)

暑さ対策として、暑さ指数については2回計測している。指数が低くても子どもたちが体育の時間に熱中症の症状が見られた場合は、早急に保健室に移動して休ませる他、水分補給等も含めて、適切な形で対応できるよう指導している状況である。

(靱山委員)

実際にそういった対応をとった事例はあるか。

(齊藤総括指導主事)

教育委員会に報告があがっている状態ではここ1週間で2件ほど報告があった。それは全て体育の活動での熱中症症状であり、早急に休ませている。

(大山委員)

夏休み中のクロームブックの持ち帰りについて、今年度の夏休みは全ての学校で持ち帰るということで良いか。

(齊藤総括指導主事)

そのように指導を行っているところである。

(大山委員)

終わった段階で、持ち帰り状況がどうだったのかを学校から聞き取りして教えていただければと思う。

(靱山委員)

「タブドリLive!」というものがクロームで使えるということだが、保護者に対し導入されていることは周知されているのか。

(齊藤総括指導主事)

これを利用する際に、全ての保護者の同意を取っている状況である。

(靱山委員)

オフラインでできるというところにメリットを感じた。例えば、車内でプリントだとできないことが、オフラインであることによってタブレットでできる点や、習い事の待ち時間にも宿題ができる点等、家庭の中の隙間時間にも活用することができるというメリットを感じていた。そういった点を各家庭にもアプローチすると良いのではないかと思う。

(齊藤総括指導主事)

今年度導入した「タブドリLive!」というのは、一人一人の学習状況に応じて問題がレベルアップしていくものであり、そのご褒美にアイテムが手に入るといった子どものやる気を引き出していくというものになっている。オンラインで行った場合は都度アイテムが手に入り、オフラインであれば学校で接続した際にまとめて届く形になるため、基本的な使い方としてはオンラインの方が良いのかもしれないが、家庭の状況によってはオンラインで使えないところもあると思われるので、オフラインも効果的に活用しながらその点も周知していきたい。

(山口委員)

資料の中にくしろ未来づくりプロジェクト参加依頼とあり、これは教育局主催の事業であると聞いているが、くしろ未来づくりプロジェクトと名前に釧路がついているということは、道教委の事業というよりも釧路教育局単独の取組ということなのか。内容を教えてほしい。先日いただいた生徒指導推進協議会だよりの裏側に、釧路市子どもミーティングの今年のテーマは「釧路市の未来について～つくろうあたらしい釧路市を～」とあり、こちらはとても期待している。子どもたちに生まれ育った釧路市の未来について、どのようにして魅力あるまちにしていくか、そこに自分たちもどのように関わっていくかということを考えることは絶対に必要であると思うので、大いに期待しているが、その内容と重複していると感じる。この事業にどのように関わっていくのか教えてほしい。

(齊藤総括指導主事)

くしろ未来づくりプロジェクトは釧路教育局主催で開催するものであり、内容については小学6年生や児童会の子ども達と、中学校の代表生徒がオンラインでつながり、釧路管内の未来について自分たちができることを話し合うという内容となっている。1回目は7月30日で夏休み中である。こども基本法が策定され、第11条にこどもたちの意見等を各行政施

策に反映させていくという取組みが示されており、北海道並びに釧路市でも同様な取組みが見られてくると思われる。今後の課題として、釧路管内としてもこういった取組みをしているが、釧路市も子どもミーティングを実施していることから、今後整理をしていく必要があると思う。学校側からすると、二度手間に感じる部分もあるかと思われるので、直接釧路教育局と議論しながら、釧路市は子どもミーティングを行っているので、そこを中核としながら、ジョブカフェやキャリアシンポジウム等のキャリア教育の推進に釧路教育局も共同で行えればと感じているので精査していきたい。

(大山委員)

話を聞いていて整理が必要だと感じた。釧路教育局の事業なので、釧路教育局が主体的に整理することになると思うが、過去、釧路市子どもミーティングの中で、小学生、中学生、高校生を入れて話し合っていたが、中々かみ合わない部分があった。よってそれぞれの発達段階に応じた釧路の未来についての意識づけということであれば、小学生は小学生の発想が生きるような話合いの場が必要であり、中学生、高校生版ということも今後必要になってくるのではないかと思うので、もしそういった発言の機会あれば、釧路教育局へ意見を述べていただければと思う。